

付録1

昭和62年度において講じようとする
公害防止に関する主要施策

付録 1 は、
昭和62年 5 月に発行されたものです。

目 次

第1章 基本的施策	435
第1節 公害・環境行政の総合的推進	435
1. 環境総合計画の推進	435
2. 公害防止計画の策定・推進	435
3. 環境影響評価要綱の推進	435
4. 環境モニタリングシステムの整備	436
5. 環境情報システムの整備	436
6. 快適環境の創造	436
第2節 公害防止条例等の整備	437
第3節 土地利用の適正化に関する施策	437
1. 土地利用における公害防止の配慮	437
2. 土地利用調査の実施	437
第2章 公害防止の諸施策	438
第1節 大気汚染対策	438
1. 法律・条例に基づく規制	438
2. 大気汚染に係る環境保全対策の推進	438
3. 光化学スモッグ対策の推進	439
4. 発生源常時監視システムの整備	439
5. 大気汚染の常時監視及び緊急時措置の実施	440
6. 大気汚染現況調査等の実施	440
第2節 水質汚濁対策	441
1. 法律・条例に基づく規制	441
2. 化学的酸素要求量に係る総量削減計画の策定・推進	441
3. 大阪湾の富栄養化防止対策の実施	441
4. 有機塩素系化学物質による水質汚染防止対策の実施	442
5. 下水道整備の推進	442

6.	生活排水対策	442
7.	水質汚濁の常時監視	442
8.	水質環境モニタリング事業の実施	443
9.	河川浄化事業の実施	443
10.	河川の管理等	444
11.	河川環境の整備	444
12.	港湾環境の整備	444
第3節	騒音・振動対策	444
1.	法律・条例に基づく規制	444
2.	近隣騒音対策の推進	444
3.	騒音振動調査の実施	445
第4節	自動車公害対策	445
1.	自動車排出ガス対策の推進	445
2.	自動車騒音振動対策の推進	446
第5節	航空機公害対策	446
1.	大阪国際空港周辺環境対策の推進	446
2.	空港周辺整備機構に対する助成	447
第6節	地盤沈下対策	447
1.	法律・条例に基づく規制	447
2.	地盤沈下状況の調査の実施	448
3.	都市河川地盤沈下対策事業の実施	448
4.	工業用水の供給	448
第7節	廃棄物処理対策	448
1.	産業廃棄物処理対策の推進	448
2.	一般廃棄物処理対策の推進	449
3.	最終処分場の確保	449
第8節	農林・水産・畜産公害対策	449
1.	農林・水産・畜産公害対策の実施	449
2.	農業用水及び土壌汚染対策の実施	450

第9節	環境保健対策	450
1.	健康被害に関する調査研究の実施	450
2.	保健所における公害関連業務の実施	450
第10節	被害救済等	451
1.	公害健康被害補償法の施行等	451
2.	公害に関する苦情・相談の処理	451
3.	大阪府公害審査会の運営	451
4.	公害関係事犯取締りの実施	451
第11節	中小企業に対する助成等	451
1.	工場の適正配置及び集団化の促進	451
2.	中小企業者に対する公害防止資金の融資	452
3.	公害防止技術の相談・指導	452
4.	公害防止技術者の養成	453
5.	公害防止技術の研究開発等	453
6.	中小企業における公害防止技術の研究に対する助成	453
第12節	公害に係る検査・分析業務体制の整備	453
第13節	その他の公害対策	453
1.	市町村の公害防止行政に対する助成	453
2.	公害防止管理者等に係る業務の運営	454
3.	公害モニター制度の運営	454
4.	公害防止に関する知識の普及	454
5.	電波受信障害対策	454
6.	公害防止に関する国際交流の推進	455
7.	関西国際空港環境監視機構の運営	455
第14節	自然環境保全対策	455
1.	法律・条例に基づく規制等	455
2.	自然環境保全対策の実施	455
第15節	歴史的・文化的環境の保全	457
1.	法律・条例に基づく指導等	457

2. 歴史的文化的環境保全対策の実施	457
付録 昭和62年度公害関係当初予算（関連事業を含む）一覧	459

第1章 基本的施策

第1節 公害・環境行政の総合的推進

1. 環境総合計画の推進

21世紀を見通しつつ昭和65年度を目標とした環境の保全と創造に係る総合的、基本的な計画である「大阪府環境総合計画（STEP21）」（昭和57年12月策定）に基づき、健康で人間性豊かな環境を備えた定住魅力のある大阪を目指して、環境の保全と創造に係る諸施策の円滑な推進を図る。

2. 公害防止計画の策定・推進

公害対策基本法（昭和42年法律第132号）第19条の規定により、昭和57年9月内閣総理大臣から策定の指示があり、昭和58年3月に同大臣の承認を受けた大阪地域公害防止計画に基づいて、環境汚染等の状況及び推移を把握するとともに、公害の防止に関する事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律（昭和46年法律第70号）の適用を受ける事業を中心とする各種の公害対策事業及び公害防止関連事業の進行状況を把握する。

なお、同計画は、昭和61年度で計画期間が満了したことに伴い、新たに昭和66年度を目標年度とする次期大阪地域公害防止計画（昭和62～66年度：予定）を内閣総理大臣の策定指示を得て策定する。

3. 環境影響評価要綱の推進

環境汚染の未然防止を図り、良好な環境を確保するために、昭和59年2月に制定した「大阪府環境影響評価要綱」に基づいて、環境に著しい影響を及ぼすおそれのある開発事業の実施に際しては、事業者が環境影響評価を実施させ、地域住民や関係市町村長、あるいは学識経験者等の意見も聞き、環境保全が図られるよう、事業者を十分指導する。

また、審査に必要なデータの収集、解析予測手法などの技術的事項につ

いて引き続き調査、研究を進める。さらに、府域の環境関連諸情報を体系的に整備し、環境影響評価に係る現況把握等に利用するシステムを開発する。

4. 環境モニタリングシステムの整備

環境汚染や自然破壊を早期に発見し、あるいはそれらの発生する可能性を予測し、適切な対策に結びつけるため、環境汚染の現況や自然環境、健康影響等に関する諸情報を体系的に把握する環境モニタリングシステムの整備を図る。

このため、大気、水質、騒音等の常時監視測定網の充実に努めるとともに、リモートセンシングデータの活用や生物指標の導入による環境の総合的かつ確かな把握手法について調査、検討を進める。また、環境モニタリングの新しい手段として、環境の状況を面的にかつ広域的・経常的に把握できるランドサット等の地球観測用人工衛星等によるリモートセンシングデータを用い、府域の環境を監視することにより、環境影響評価制度及び快適環境創造等の施策推進に際して情動的な支援を行うシステムの開発に努める。

5. 環境情報システムの整備

環境影響の事前評価や快適な環境の創造に向けての合理的な政策の決定と諸施策の推進に資するため、地域環境に関する諸情報を体系的に蓄積整備し、環境の現況解析や将来予測等が行えるよう環境情報システムの整備を図る。

そのため、環境情報データベースや解析・予測システムの拡充、評価システムの開発に重点をおいてその整備に努める。

6. 快適環境の創造

「大阪府環境総合計画（STEP21）」に基づき、快適な環境の創造を推進するため、快適な環境づくりについて府民と行政がともに考え、知恵を

出し合う場として「快適環境府民会議」を開催し、地域の特性を生かしたゆとりとうるおいのある環境づくりを進める。また、府民の環境問題に対する意識啓発に努め、府民の主体的参加を得て快適な環境づくりを進める。

第2節 公害防止条例等の整備

工場・事業場に対する規制等については、大阪府公害防止条例（昭和46年大阪府条例第1号）及び同施行規則（昭和46年大阪府規則第55号）等に基づいて積極的に推進しているところであるが、今後の効果的な環境行政の推進に資するため、環境関連法令等の動向に配慮しながら同条例等について必要に応じ改正を行い、その整備を図る。

第3節 土地利用の適正化に関する施策

1. 土地利用における公害防止の配慮

臨海部の造成地等における土地利用の決定に当たっては、公害防止の見地から最大限の配慮を行う。

二色の浜の水質保全とその周辺河川及び大阪湾の汚濁防止並びに貝塚市及び周辺地域の都市機能の向上と生活環境の改善を図るため、二色の浜環境整備事業を推進する。

関西国際空港の建設・運用による人口増大と産業拡大に対し、適正な土地利用を図るとともに、空港機能を支援・補完し、地域の環境改善を図るため、南大阪湾岸整備事業を推進し、空港と地域の調和したまちづくりを進める。

2. 土地利用調査の実施

府下各地域ごとの特性を把握し、都市発展の動向に的確に対応した合理的な都市計画を推進するため、土地利用の現況等の調査を行い、電子計算機処理システムの整備を進める。

第2章 公害防止の諸施策

第1節 大気汚染対策

1. 法律・条例に基づく規制

大気汚染防止法（昭和43年法律第97号）及び大阪府公害防止条例並びに大気汚染防止法第4条第1項の規定による排出基準及び水質汚濁防止法第3条第3項の規定による排水基準を定める条例（昭和49年大阪府条例第8号。以下「上乗せ条例」という。）に基づき、関係工場・事業場に対する規制、指導を強力に実施する。

また、悪臭防止法（昭和46年法律第91号）に基づく規制事務を円滑に進めるため、関係市町村に対する指導の徹底を図る。

2. 大気汚染に係る環境保全対策の推進

大阪府環境総合計画に基づく環境保全目標を維持・達成するため、窒素酸化物、硫黄酸化物、浮遊粒子状物質及び炭化水素について次の対策を推進する。

(1) 窒素酸化物対策の推進

関係工場・事業場に対して、総量規制基準、排出基準による規制、指導を行い、その遵守徹底を図るとともに、府下全域の全工場・事業場に対して「固定発生源に係る窒素酸化物削減指導方針」に基づき、より一層の排出量の削減指導を行う。

さらに、二酸化窒素に係る環境基準を早期に確保するため、環境基準未達成の局地的な地域において、二酸化窒素が高濃度となりやすい時期に限った対策を検討する「窒素酸化物短期高濃度対策検討調査」を実施する。

また、中小固定発生源に対し、クリーンエネルギー化への転換を誘導するとともに、群小発生源対策として暖冷房施設の集約化を図る地域エネルギーセンターの普及促進に努める。

二酸化窒素に係る環境基準の科学的根拠について理解を深めるために「二酸化窒素の環境基準に係る専門家会議」で引き続き検討を進める。

(2) 硫黄酸化物対策の推進

関係工場・事業場に対して、総量規制基準、排出基準及び燃料使用基準等による規制、指導を継続し、その遵守徹底を図る。

(3) 浮遊粒子状物質対策の推進

関係工場・事業場に対して、ばいじんの排出基準、設備基準等の遵守徹底を図る。また、「浮遊粒子状物質の発生源、発生機構の解明・解析調査」に基づき、有効適切な浮遊粒子状物質対策を検討し、推進する。

(4) 炭化水素対策の推進

関係工場・事業場に対して、排出基準及び設備基準の遵守徹底を図る。

3. 光化学スモッグ対策の推進

光化学スモッグの発生原因を究明する等のため、前年度に引き続き次の諸調査を実施するとともに、緊急時の対策を推進する。

(1) 光化学スモッグの原因物質と考えられている窒素酸化物、炭化水素について、発生源の排出実態の把握に努める。

(2) 光化学スモッグの発生を予測してその防止対策に資するため、常時監視による環境濃度の測定データ等を利用して発生機構の解明に努める。

(3) 光化学スモッグ注意報等の発令時における緊急時措置として、関係工場・事業場に対する排出ガス量の削減等の要請及び自動車の運行自粛の呼びかけを行う。また、速やかに市町村等関係機関へ連絡を行うとともに、府民への周知徹底を図る。

(4) 炭化水素類排出施設に対する光化学スモッグ対策としての有効な規制方策について検討を続ける。

4. 発生源常時監視システムの整備

窒素酸化物に係る総量規制等の実施に伴い、大規模発生源に対して発生

源常時監視システムを計画的に整備し、窒素酸化物排出量等の常時監視を行い、総量規制基準等の遵守徹底を図る。

(参考) 大気汚染発生源常時監視システム整備状況

(昭和62年3月31日現在)

中央局	端末機	発生源子局
府公害監視センター	大気課・堺分室	26局

5. 大気汚染の常時監視及び緊急時措置の実施

大気汚染常時監視システムを活用し、大気汚染状況について迅速かつ確かな常時監視を行うとともに、緊急時における情報の伝達を速やかに行うなど適切な措置を実施する。

(参考) 大気汚染測定網整備状況

(昭和62年3月31日現在)

区分	局数	左のうち府公害監視センターにおいて常時収集している局数
硫黄酸化物測定局	98局	57局
浮遊粉じん測定局	69	37
浮遊粒子状物質測定局	55	21
一酸化炭素測定局	49	23
窒素酸化物測定局	105	53
オキシダント測定局	86	53
炭化水素測定局	35	23

(注) 局数には、府、市、町所管局及び大気汚染測定車を含む。

6. 大気汚染現況調査等の実施

大気汚染の現況及び汚染物質の発生源の動向を把握するため、次の諸調査を実施する。

- (1) 浮遊粉じん環境調査（測定点は浮遊粉じんについては9地点、うち大阪市内の3地点は大阪市が実施、浮遊粒子状物質については6地点）
- (2) 燃料使用状況調査（調査対象工場・事業場は約5,000、うち大阪市内分は大阪市が分担して実施）
- (3) 窒素酸化物浄化に関する調査研究（府下3地域、3樹種の葉を定期的に採取し、樹木群落によるNO_x浄化効果調査を実施）
- (4) 酸性降下物の実態調査（府下2地点で、環境庁の委託により、雨水成分の分析調査を実施）

第2節 水質汚濁対策

1. 法律・条例に基づく規制

水質汚濁防止法（昭和45年法律第138号）、瀬戸内海環境保全特別措置法（昭和48年法律第110号）、大阪府公害防止条例及び上乗せ条例に基づき、関係工場・事業場に対する規制、指導の徹底を図る。

2. 化学的酸素要求量に係る総量削減計画の策定・推進

水質汚濁防止法第4条の3の規定に基づき、昭和64年度を目標年度とした第2次「化学的酸素要求量に係る総量削減計画」を策定し、削減目標量達成のため、下水道の整備をはじめ浄化槽対策や生活雑排水対策等の生活排水についての対策を重点的に進めるとともに、産業排水対策として、指定地域内事業場に係る総量規制基準を改定し、その遵守指導を行う。

3. 大阪湾の富栄養化防止対策の実施

大阪湾における富栄養化による生活環境に係る被害の発生を防止するため、瀬戸内海環境保全特別措置法第12条の3の規定により新たに策定した^{りん}燐及びその化合物に係る削減指導方針（昭和61年大阪府告示第672号）に基づき、産業排水対策として、^{りん}燐処理施設の導入、既設の処理施設の維持管理方法の改善等を指導するとともに、生活排水対策として、下水道及

びし尿処理施設の整備等のほか、合成洗剤対策推進要綱に基づき石けん等無^{りん}燐洗剤の使用や洗剤使用の減量化について指導啓発を行う。

一方、燐と並んで主要な富栄養化要因物質である窒素についても排出実態の把握等に努める。

4. 有機塩素系化学物質による水質汚染防止対策の実施

有機塩素系化学物質による水質汚染を防止するため、河川等の水質実態の把握に努めるとともに、国が定めた排出の抑制に関する管理目標に基づき、これら物質を使用する水質汚濁防止法及び大阪府公害防止条例の対象事業場等に対し、適正な使用及び管理の指導を行う。

5. 下水道整備の推進

公共用水域の水質を保全するとともに、生活環境を改善するため、引き続き寝屋川、猪名川、安威川、淀川右岸、淀川左岸、大和川下流及び南大阪湾岸の各流域下水道の整備を行う。

また、市町村が実施する公共下水道事業に対し事業推進の指導を行い、下水道整備を促進する。

6. 生活排水対策

公共用水域の水質汚濁原因の大半を生活排水が占めるため、府民を対象に生活排水に関する啓発を行う。

また、生活排水処理実験施設の調査に引き続き、新たに都市水路浄化システムを設置し、処理効率及び維持管理技術上の諸問題について調査研究を行う。

7. 水質汚濁の常時監視

府下の主要河川及び大阪湾の水質の汚濁状況を常時監視するため、公共用水域の水質測定計画に基づき、94河川134測定地点並びに海域21測定地点において、河川管理者及び関係行政機関の協力を得て計画的に水

質の監視、測定を行う。

また、総量規制基準が適用される一定規模以上の指定地域内事業場に設置される自動計測器及び河川の水質自動観測局のデータを集中監視する水質テレメータ監視システムを計画的に拡充整備する。

(参考) 水質自動観測局設置状況

(昭和62年3月31日現在)

観測局名	設置場所	設置年度
一津屋	淀川神崎川分岐点(大阪市東淀川区南江口)	昭45
安威川	神崎川合流点直前(大阪市東淀川区相川町)	54
寝屋川	寝屋川上流(大東市三箇)	55
第二寝屋川	長瀬川合流点直前(大阪市城東区諏訪)	56
大津川	大津川上流(忠岡町忠岡東3丁目)	59
石川	千早川合流後左岸(富田林市若松町東3丁目)	61

水質テレメータ監視システム整備状況

(昭和62年3月31日現在)

中央監視局	副監視局	発生源測定局	環境水質測定局
公害室堺分室内	水質課	63局	5局

8. 水質環境モニタリング事業の実施

河川の水辺環境にせい息する生物の実態を、府民自ら観察してもらうことにより、水質保全の重要性について理解と認識を深めるとともに、観察結果をとりまとめ、指標生物により河川の水質状況を把握する。

9. 河川浄化事業の実施

河川の汚濁を防止するため、都市河川浄化事業として神崎川及び寝屋川等において汚泥のしゅんせつを行う。また、昭和62年度から古川浄化導水路の建設に着手する。

10. 河川の管理等

河川敷内への廃棄物の不法投棄を防止するため、河川パトロールに加えて、河川管理協力員制度を効果的に活用するとともに、防護柵の設置を推進する。また、河川へ流出した工場廃油処理のためのオイルフェンスを府土木事務所、治水事務所及び工営所に常備する。

なお、府民の河川への理解と愛護精神の高揚を図るため、河川愛護月間を設けて啓発活動を行う。

11. 河川環境の整備

河川敷内に堆積又は水面に浮遊するじんかいの清掃並びに雑草の刈取りを実施するほか、沈船の引揚げ等を行う。

12. 港湾環境の整備

府営港湾の環境整備を図るため、港内に発生した廃油及びじんかいの処理を行うとともに、港湾の緑化を推進する。

第3節 騒音・振動対策

1. 法律・条例に基づく規制

騒音規制法（昭和43年法律第98号）、振動規制法（昭和51年法律第64号）及び大阪府公害防止条例に基づく騒音・振動に係る規制事務を円滑に進めるため、市町村に対する指導の強化、担当職員の技術研修の充実等により工場・事業場等に対する規制、指導の徹底を図る。

2. 近隣騒音対策の推進

市町村や関係機関と協力して生活騒音の防止に関する各種の啓発活動を実施するとともに、カラオケ騒音規制の徹底、拡声機騒音等の防止強化に努める。

3. 騒音振動調査の実施

幹線道路周辺における低周波空気振動の実態等を調査し、環境影響評価に必要な資料の整備を図るとともに、新幹線騒音対策推進のための調査を行う。

第4節 自動車公害対策

1. 自動車排出ガス対策の推進

(1) 「大阪自動車公害対策推進会議」において、通勤・通学自動車の使用自粛や業務用自動車の運行の合理化等について、府民・事業者に対する啓発を強化するとともに、自動車排出ガスに係る技術診断により排ガス減少装置の整備等の周知徹底を図る。

また、国に対しては発生源対策の強化と併せて交通総量削減のための総合都市交通対策の確立を強く要望する。

- (2) 都市における交通公害等の各種障害に対処するため、都市総合交通規制を更に推進し、交通流の整序、安定化、自動車交通総量の削減を図る。
- (3) 広域制御地域の拡大、信号機の系統化等交通管制機能の高度化により、自動車の走行状態の改善を図る。
- (4) 一酸化炭素、炭化水素等自動車排出ガスに係る整備不良車両の指導取締りを推進する。
- (5) 自動車使用合理化の実行可能性を調査し、自動車使用合理化等マニュアルを策定して、これをもとに関係業界等に、合理化の啓発要請等を行い貨物車交通量の抑制を図る。
- (6) 低公害車であるメタノールトラックの運転性能、経済性能等について、実走行テストを行うとともに、今後の普及対象分野（用途・車種）点検整備及び燃料供給体制のあり方等を検討する。

2. 自動車騒音振動対策の推進

- (1) 走行状態の改善を図るため、幹線道路については、車線走行及び適正速度走行のための交通規制並びに各種交通安全施設等の整備を図る。また、生活道路については、一方通行を基軸とした各種交通規制を総合的に組み合わせた生活ゾーン規制の一層の充実強化を図る。
- (2) 自動車騒音・道路交通振動の増大に影響が認められる速度超過、整備不良・過積載車両等の指導取締りを強化する。
- (3) 自動車騒音・振動による障害を防止するため、幹線道路の沿道の整備に関する法律（昭和55年法律第34号）に基づく沿道整備事業及び各道路管理者が行う防音壁の設置等の促進を図る。
- (4) 市町村、関係機関が行う自動車騒音・道路交通振動対策の円滑な実施を図るため、その連絡調整に当たる。
- (5) 高層ビルにはさまれた道路や、平坦道路の上部に高架道路が併設されている場合等、騒音の反射やこもり音の影響が大きいと思われる地域を対象に、模型実験により、具体的な道路交通騒音対策手法を検討する。（今年度は、代表的な地域での縮尺模型を作成し、得られた実験値と実測調査結果との比較を行うことにより実験手法の確立を図る。）

第5節 航空機公害対策

1. 大阪国際空港周辺環境対策の推進

大阪国際空港の周辺環境対策として次の措置を講じる。

- (1) 大阪国際空港周辺地域の騒音等激甚地区において国と共同して都市計画緑地の整備を進める。
このうち利用緑地について、測量調査及び告示日後建物の移転補償を行う。
- (2) 移転跡地等を利用して地元市が行う公園等の周辺環境基盤施設整備事業に対し国と共に補助する。

- (3) 航空機騒音防止対策として関係市が行う学校等の公害防止工事に対して、その負担を軽減するため市町村施設整備資金を活用して資金の貸付けを行う。
- (4) 空港周辺整備機構による移転補償を受けて住宅等を移転する者が、それに要する資金を金融機関等から借り入れた場合に、その利子の一部を補給する。
- (5) 空港周辺地域の営業者に対し、移転及び経営改善の資金をあっせん融資し、その利子の一部を補給する。
- (6) 豊中市が実施する鼻出血医療対策事業に対して補助を行う。
- (7) 住宅の移転者に対して府営住宅及び府住宅供給公社住宅への優先入居を行う。
- (8) テレメータシステムによる航空機騒音の常時測定のほか、必要に応じて航空機騒音等の実態調査を実施する。

2. 空港周辺整備機構に対する助成

空港周辺整備機構に対し、職員を派遣して執行体制の強化を図るとともに次の助成を行う。

- (1) 民家防音工事に対する補助
- (2) 再開発整備事業、代替地造成事業及び共同住宅建設事業に対する資金の貸付け

第6節 地盤沈下対策

1. 法律・条例に基づく規制

工業用水法（昭和31年法律第146号）及び大阪府公害防止条例に基づく地下水の採取の規制を行うため、地下水採取の実態把握に努めるとともに、規制地域内の関係工場・事業場に対する規制、指導の徹底を図る。

2. 地盤沈下状況の調査の実施

府下の地盤沈下の状況を把握するため、引き続き水準測量調査（観測点319点）を実施するとともに、観測井戸による地下水位及び地盤沈下の状況の観測を実施する。

3. 都市河川地盤沈下対策事業の実施

地盤沈下により排水機能が低下し、かつ護岸が老朽化している古川の改修を推進し、治水レベルの向上を図る。

4. 工業用水の供給

北摂地域、東大阪地域及び泉州地域の地盤沈下対策として、地下水の代替水を確保するため、工業用水道による工業用水の安定供給に努める。

第7節 廃棄物処理対策

1. 産業廃棄物処理対策の推進

産業廃棄物の適正な処理を図るため、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）及び大阪府産業廃棄物処理計画（昭和57年6月策定）に基づき、次の施策を推進する。

- (1) 排出事業者及び産業廃棄物処理業者の指導、監視を強化するとともに、産業廃棄物の減量化対策の推進及び総合的管理システムの調査、研究を行う。
- (2) 堺第7-3区における産業廃棄物の広域処理対策事業については、引き続き財団法人大阪産業廃棄物処理公社を事業主体として実施することとし、無害の汚泥等の廃棄物の埋立処分を行うとともに、同区内の大阪産業廃棄物中間処理センターにおいて、廃油、有害汚泥等の中間処理を行う。

また、堺第7-3区のうち、既に竣功した部分の一部（15.5ha）に

整備した「みなと堺グリーンひろば」を府民がスポーツ・レクリエーション活動に手軽に利用できるよう開放している。

なお、これらの事業のため同公社に対し、必要な技術的、財政的援助を行う。

2. 一般廃棄物処理対策の推進

- (1) 市町村が行う一般廃棄物の適正な処理を促進するため、廃棄物処理施設の整備等に対して技術的、財政的援助を行う。

また、廃棄物減量化対策、適正処理困難物対策等について、「大阪府廃棄物減量化対策推進協議会」において調査、研究を進める。

- (2) ごみや空き罐などの散乱防止を図るため、市町村と共に統一して環境美化キャンペーンを実施する等啓発を強化する。

3. 最終処分場の確保

関係府県、府下市町村等と協力し、大阪湾広域臨海環境整備センターを事業実施主体として環境保全に十分留意しつつ、広域処理場整備計画（フェニックス計画）の推進を図る。

第8節 農林・水産・畜産公害対策

1. 農林・水産・畜産公害対策の実施

- (1) 農林・水産及び畜産業関係の公害対策として、前年度に引き続き次のような調査研究及び事業を行う。
 - ① 有害ガスによる農作物等の影響に関する調査研究
 - ② 残留農薬に関する調査研究
 - ③ 漁場環境等に関する調査研究
 - ④ 家畜ふん尿の処理技術に関する調査研究
- (2) 漁場環境について観測ブイ等により常時監視を行う。
- (3) 地域の実情に即した畜舎環境保全施設の整備を計画的に推進する市町

村等に対し助成を行う。

- (4) 水産生物のせい息環境悪化や漁業操業の障害となる海底に堆積したゴミ類の除去、あるいは、流出油や赤潮による漁業被害の防止など漁場環境保全対策事業を実施する。

2. 農業用水及び土壤汚染対策の実施

都市排水の増加により農作物被害が増加している区域の水源転換、水質浄化、用排水分離水路の新設、改良を行うため、水質障害対策事業を推進する。

また、重金属等の有害物質による土壤及び農作物の汚染の実態調査及びその被害対策を引き続き実施する。

第9節 環境保健対策

1. 健康被害に関する調査研究の実施

環境汚染による健康への影響について、大阪府公害健康調査専門委員会議の助言を得て、次の調査研究を行う。

- (1) 大気汚染が人の健康に与えている影響の実態を把握するため、引き続き複合大気汚染の健康影響に関する基礎医学的及び疫学的調査研究を実施する。
- (2) 光化学スモッグによる健康被害の実態を把握するため、必要に応じて緊急調査班を編成して現地調査を行う。
- (3) 食品中の微量有害物質等の汚染分布状況調査を実施する。
- (4) 環境汚染による健康影響の監視、予防体制の確立を図るため、引き続き調査検討を進める。

2. 保健所における公害関連業務の実施

公衆衛生の立場から公害に係る苦情相談、地域の特性に応じた環境汚染による人体影響に関連する各種の調査、衛生教育等を実施する。

第10節 被害救済等

1. 公害健康被害補償法の施行等

公害健康被害者の公正、迅速な保護を図ることを目的とする公害健康被害補償法（昭和48年法律第111号）に基づき、大阪市、豊中市南部、吹田市南部、守口市、東大阪市の一部、八尾市の一部及び堺市西北部がその適用地域に指定されているが、同法による認定患者が死亡した場合、関係市と共にその遺族に対し見舞金を支給する。

2. 公害に関する苦情・相談の処理

公害に関する苦情・相談については、公害室各課、府の各保健所、府警察本部及び警察署並びに市町村公害担当部課が相互に密接な連携を保ちながら、その迅速かつ適切な処理に努める。

3. 大阪府公害審査会の運営

公害紛争の迅速かつ適正な解決を図るため、公害紛争処理法（昭和45年法律第108号）に基づいて設置された大阪府公害審査会において、紛争事案の処理に努めているが、継続中の調停事案の手続を進めるとともに、新たに調停等の申請があった場合にはその適正な処理に努める。

4. 公害関係事犯取締りの実施

府民の健康を害し、また日常生活に直接被害を与える悪質又は重要と認められる公害関係事犯については、関係行政機関との密接な連携のもとに種極的な取締りを推進する。

第11節 中小企業に対する助成等

1. 工場の適正配置及び集団化の促進

公害を抜本的に解決するためには土地利用の適正化を図る必要があるが、

特に工場と住宅の混在により発生する公害を防止するため、次の諸施策を講じることにより、引き続き工場の適正配置及び集団化を促進する。

- (1) 公害防止事業団等の資金を利用して共同公害防止施設、共同利用工場、工場移転用地、共同福利施設等の建設事業を促進する。
- (2) 市町村又はその開発公社が行う公害防止対策事業等の用地の先行取得に対して、所要資金の一部について融資あっせんする。
- (3) 中小企業の工場移転により、公害の解消に努めるため、財団法人大阪府中小企業団地開発協会による中小企業団地造成事業の促進を図る。

2. 中小企業者に対する公害防止資金の融資

- (1) 中小企業における公害防止施設の設置・改善、工場移転等を促進するため、引き続き中小企業公害防止資金特別融資制度の積極的な運用に努める。

融資目標額 13億円

融資限度額 2,500万円（工業専用地域等への工場移転及び事業協同組合等に対しては、5,000万円）

無担保融資 600万円

融資期間 7年以内

- (2) 中小企業者が共同して行う共同公害防止事業等に対し、中小企業事業団法（昭和55年法律第53号）による中小企業高度化資金の貸付けを行う。
- (3) 中小企業設備近代化資金貸付けのうち、公害防止設備に係る貸付けについては、一定期間いつでも申込みができるよう便宜を図るほか、優先的に貸付けを行う。
- (4) 中小企業設備貸与事業等の実施に当たり、中小企業者に対する公害防止設備の貸与等を積極的に進める。

3. 公害防止技術の相談・指導

工業技術研究所及び繊維技術研究所において、公害防止技術についての

相談・指導を行うほか、公害防止の技術指導を必要とする企業への実地指導を行う。

4. 公害防止技術者の養成

中小企業における公害防止体制の強化を図るため、各種の技術者研修を実施する。

5. 公害防止技術の研究開発等

公害防止技術の開発、汚染状況の把握等を目的として、工業技術研究所において、異臭味の除去に関連する水処理技術の研究、銅めっき浴の電気化学的管理方法に関する研究を放射線中央研究所において、放射線利用による環境汚染に関する研究を行うとともに、現在までの調査研究について、その成果の普及に努める。

6. 中小企業における公害防止技術の研究に対する助成

中小企業の実情に即した公害防止対策を推進するため、財団法人関西産業公害防止センターが行う公害防止技術の研究事業に対し、引き続き助成措置を講じる。

第12節 公害に係る検査・分析業務体制の整備

大気汚染、水質汚濁、騒音・振動に関する公害試料の分析業務の充実を図るため、引き続き検査分析機器の整備と分析技術の向上に努めるとともに、市町村が行う検査分析業務に関する技術指導を行う。

第13節 その他の公害対策

1. 市町村の公害防止行政に対する助成

(1) 公害防止事務費交付金の交付

大阪府公害防止条例に基づく事務を委任している市町村に対し、引き続き交付金を交付する。

(2) 公共用飛行場周辺における航空機騒音による障害の防止等に関する法律（昭和42年法律第110号）及び公害の防止に関する事業に係る国

の財政上の特別措置に関する法律に基づく、国の助成に係る学校等の公害防止事業を行う市町村に対して、市町村施設整備資金貸付金を貸付ける。

2. 公害防止管理者等に係る業務の運営

特定工場における公害防止組織の整備に関する法律（昭和46年法律第107号）に基づき、特定事業者に対し、公害防止管理者等の選任及び届出等が適正に行われるよう指導する。

3. 公害モニター制度の運営

公害モニターから、公害行政について意見の提出及び公害発生状況等に関する報告を求め、公害行政の推進に活用するとともに、研修会等を実施してモニター活動の円滑化を図る。

4. 公害防止に関する知識の普及

府民及び事業者に対し、公害等に関する知識の普及を図るため、環境白書の刊行及び公害防止に関する各種啓発パンフレット等の資料の発行を行う。

また、環境月間（6月）の諸行事への府民の参加を通して、公害の防止と良好な生活環境に関する意識の向上を図る。

また、大阪府環境情報コーナーにおいて、府民が自ら環境利用する際の判断資料として、あるいは環境影響評価に際しての資料として活用できる公害等に関する情報の提供及び公開に努める。

5. 電波受信障害対策

電波受信障害については、府営住宅の建設等による電波受信障害に対処するため共同アンテナの設置を行うほか、電波受信障害対策に関する制度の確立を国に働きかける等、必要な措置を講じる。

6. 公害防止に関する国際交流の推進

公害防止に関する国際交流の推進を図るため、外国からの研修生の受け入れや府からの専門家派遣を行う。なお、昭和62年度においてはインドネシア東ジャワ州及び中国上海市との交流事業を実施する。

7. 関西国際空港環境監視機構の運営

関西国際空港と関連事業の実施に伴い、環境面等で地域住民の生活に支障が及ぶことのないよう、知事と泉州8市5町の長により設立した本機構により、事業主体の環境監視データなどをチェックし、必要に応じて対策を要請・勧告する。

第14節 自然環境保全対策

1. 法律・条例に基づく規制等

自然環境の保全を図るため、森林法（昭和26年法律第249号）、自然公園法（昭和32年法律第161号）、近畿圏の保全区域の整備に関する法律（昭和42年法律第103号）、大阪府自然環境保全条例（昭和48年大阪府条例第2号）の規定に基づき、規制地域内において開発行為等を行う者に対する規制、指導を行うとともに、都市緑地保全法（昭和48年法律第72号）に基づき指定した緑地保全地区の保全に努める。

また、同条例の規定に基づき、自然環境の保全と回復の状況を把握し、必要な指導に当たらせるため、自然環境保全指導員制度等を強化する。

また、大阪府自然海浜保全地区条例（昭和56年大阪府条例第2号）の規定に基づいて、自然海浜保全地区の保全に努める。

2. 自然環境保全対策の実施

自然環境の保全と回復を図るため、次の諸施策を実施する。

- (1) 自然に親しみ、自然を学ぶ場を府民に提供するため、金剛生駒国定公園において府民の森の利用を促進するとともに、明治の森箕面国定公園においても、箕面歩道、ようらく台園地の整備に着手し、利用施設の充実を図る。
- (2) 北生駒地域のうち、室池北部地区については、緑化回復を基本として、自然公園にふさわしい施設整備を公民一体となって整備する「緑の文化園」構想の具体化を推進する。
- (3) 府民の緑化意識の高揚を図るため、今年5月に豊能町において、第35回大阪府植樹祭を開催するほか、関連事業を実施する。また、緑化知識の普及や技術指導の拠点施設である緑化センターの適正な運営に努める。
- (4) 永続的に市街地の緑化を推進するため、広く民間の協力を得て、緑化基金の拡充を図るとともに、民間施設の緑化モデルづくりに助成を行う。
- (5) 地域住民が協同して行う緑化及び公共施設の緑化に対して緑化樹の無償配付を行い、施設緑化基準の達成に努める。
- (6) 緑化スペースのない市街地における新しい都市緑化の一手法として、建築物等の外壁やブロック塀及び河川の高擁壁護岸にツタなどを植栽する垂直緑化の普及に努める。
- (7) 「緑化宝くじ」の収益金により、市町村の行う緑化事業に対して助成を行う。
- (8) 大阪グリーントラスト基本構想策定研究会の研究成果を踏まえ、具体的な検討を進める。
- (9) 工場の緑化を推進するため、工場立地法（昭和34年法律第24号）に基づき、緑地面積の確保を指導するとともに、工場緑化用樹木の無償配付、工場緑化コンクールの開催等府下工場に対する緑化思想の啓発普及、緑化推進のための助言・指導を実施する。
- (10) 森林の保全整備を図るため、民有地に分収契約による地上権を設定し、管理事業を実施するとともに、契約期限の到来する森林のうち保全上必要なものについては、引き続き借地制度に切り換えて森林の保全を図る。
- (11) 土壌養分が乏しい不良成育林地を改良し、森林造成を行うほか、保安

林整備計画により指定された保安林の機能強化を図るため、水源林造成事業等を実施する。

また、府、市町村、府民が一体となって「府民参加の森づくり」を進めるとともに、青少年が森林や林業の役割を学習するための場である「21世紀の森」を整備する。

- (12) 第6次鳥獣保護事業計画（昭和62～66年度）に基づき、野生鳥獣の適正な保護管理を図るとともに、狩猟の適正化に努める。
- (13) 水産資源の維持培養を図るため、高級魚介類の稚魚生産技術、品種の改良等の開発研究、希少魚の増養殖試験等を行うとともに、稚魚の放流を実施する。
- (14) 自然海浜保全地区（岬町長松、小島海岸）の保全と適正な利用の促進を図るため、環境整備、啓発等に努める。

第15節 歴史的文化的環境の保全

1. 法律・条例に基づく指導等

文化財保護法（昭和25年法律第214号）及び大阪府文化財保護条例（昭和44年大阪府条例第5号）の規定に基づき、特に重要な歴史的文化的遺産については、重要文化財や史跡、名勝等に指定し、現状の変更又は保存に影響を及ぼす行為に関し必要な指示を行うとともに、埋蔵文化財包蔵地域内において開発行為等を行う者に対する指導等を行う。

また、文化財保護指導員を置き、文化財所有者その他関係者に対し、文化財の保護に関する必要な指導及び助言を行うとともに、地域の住民に対し文化財保護思想の普及、啓発活動を通じて歴史的文化的環境の保全の必要性についての周知、啓発を図る。

2. 歴史的文化的環境保全対策の実施

歴史的文化的環境を保全するため、次の諸施策を実施する。

- (1) 国宝、重要文化財等の国（府）指定の文化財について、保存修理や防

災施設の整備に対し助成する。

- (2) 地域における歴史的文化的環境の核として重要な史跡等については、市町村の行う公有化事業や環境整備事業に対し助成を行う。
- (3) 埋蔵文化財包蔵地内での開発工事について、事前に開発関係者と文化財保存について協議を行い、文化財が不用意に失われることのないよう行政指導を進める。
- (4) 発掘調査において出土した多数の遺物を計画的に整理し泉北考古資料館、文化財資料展示室等において展示・公開し、府民の歴史的文化的遺産についての認識を深める。
- (5) 市町村が設置する歴史民俗資料館等については、その建設費に対し助成を行う。
- (6) 一須賀古墳群の主要部29万㎡を保存し、「近つ飛鳥風土記の丘」として公開し、府民に歴史・文化に親しむ場を提供する。

付録 昭和 62 年度公害関係当初予算（関連事業を含む）一覧

(1) 部 局 別

(単位：千円)

部 局 名	62 年 度	61 年 度	増 減
總 務 部	100,000	350,000	△ 250,000
企 画 部	14,601	14,612	△ 11
生 活 環 境 部	3,751,478	3,976,664	△ 225,186
衛 生 部	28,521	29,185	△ 664
商 工 部	374,210	380,583	△ 6,373
農 林 部	1,849,050	2,000,505	△ 151,455
土 木 部	6,4297,500	57,798,576	6,498,924
建 築 部	227,159	89,708	137,451
企 業 局	27,867,820	11,853,820	16,014,000
水 道 部	4,579,612	4,188,034	391,578
教 育 委 員 会	535,450	906,960	△ 371,510
公 安 委 員 会	925,488	916,938	8,550
合 計	104,550,889	82,505,585	22,045,304

(2) 項目別

(単位：千円)

区分	事業名	62年度	61年度	増減	摘要
基 本 的 施 策	環境総合計画 推進費	13,524	7,331	6,193	大阪地域公害防止計画策定 9,500 (生)
	環境影響評価 制度運営費	4,397	12,100	△7,703	(生)
	公害基本対策費	32,058	33,272	△1,214	公害行政総合調整費 26,003 道路交通振動子測調査 2,000 国際交流推進事業費 3,055 大阪湾長期環境保全調査費 1,000 (生)
	環境情報管理費	92,776	92,758	18	(生)
	人工衛星等 リモートセンシング による環境監視 システム開発費	9,960	9,960	0	(生)
	二色の浜環境整備 関連公共事業費	1,627,500	1,350,000	277,500	(土)
	二色の浜環境整備 事業費	7,388,000	7,430,300	△42,300	(企業)
	都市計画基礎調査費	10,651	10,674	△23	(土)
	南大阪湾岸整備 事業費	20,470,410	4,414,870	16,055,540	(企業)
	小計	29,649,276	13,361,265	16,288,011	

(単位：千円)

区分	事業名	62年度	61年度	増減	摘要
大 気 汚 染 対 策	窒素酸化物に関する調査研究費	1,800	2,600	△800	樹木による浄化調査 1,300 (生)
	大気汚染防止規制指導費	20,197	20,224	△27	大気汚染防止規制指導費 9,947 窒素酸化物総量規制推進事業費 1,403 悪臭防止規制指導費 785 固定発生源規制機器整備費 7,000 公害パトロール車等緊急時対策費 1,062 (生)
	大気汚染防止実施計画推進費	6,400	23,144	△16,744	大気汚染物質削減計画実施費 4,200 窒素酸化物短期高濃度対策検討費 2,200 (生)
	光化学スモッグ対策費	2,807	2,993	△186	発生源工場等実態調査費等 (生)
	大気汚染測定局整備費	55,100	46,360	8,740	測定機器等整備費 (生)
	大気汚染常時監視費	122,890	130,460	△7,570	(生)
	大気汚染発生源テレメータ監視システム整備費	30,970	39,270	△8,300	発生源常時監視システム整備費 (生)
	公害現況等調査費	2,786	4,016	△1,230	燃料使用量調査費 642 浮遊粉じん環境調査費 1,021 酸性降下物実態調査 1,123 (生)
	ごみ焼却場公害防止装置運営管理費等補助金	347,312	353,688	△6,376	施設整備費補助金 223,12 運営管理費補助金 300,000 排出塩処理費補助金 25,000 (生)
	小計	590,262	622,755	△32,493	

(単位：千円)

区分	事業名	62年度	61年度	増減	摘要
水	水質汚濁防止 規制指導費	32,972	21,833	11,139	水質汚濁防止規制 11,830 水質総量規制 7,587 生活雑排水 6,100 未規制汚濁源水質調査 300 特定海域窒素発生負荷量等調査費 7,155 (生)
	発生負荷量管理等 調査費	1,662	1,952	△290	COD排出量調査 (生)
	瀬戸内海栄養塩類 削減対策費	2,610	2,752	△142	リン・窒素等富栄養物質調査 (生)
質	下水道整備費	48,192,453	43,234,703	4,957,750	流域下水道事業費 47,596,453 公共下水道補助金 596,000 (土)
	公共用水域常時 監視費	148,099	144,375	3,724	河川・海域水質常時監視費 144,978 広域総合水質調査 1,088 窒素適用対象湖沼判定調査 1,854 底質環境調査費 179(生)
濁	水質汚濁常時監視 施設整備費	37,964	54,435	△16,471	テレメータ監視システム整備費 (生)
	水質汚濁常時 監視費	62,186	55,378	6,808	(生)
対 策	水質環境モニタ リング事業費	5,000	5,250	△250	府下各河川の水辺環境観察等 (生)
	河川環境整備費	477,933	469,141	8,792	(土)
	都市河川浄化費	503,000	404,000	99,000	河川のしゅんせつ及び浄化導水路 (土)
	港湾環境整備費	228,033	221,677	6,356	港湾の緑化事業等の環境整備 (土)
	船舶廃油処理場 維持費	119,540	121,560	△2,020	船舶廃油処理施設等の維持管理 等 (土)
	公害取締対策費	1,260	1,260	0	水質検査委託料 (公安)
	小計	49,812,712	44,738,316	5,074,396	

(単位：千円)

区分	事業名	62年度	61年度	増減	摘要
騒音・振動対策	騒音・振動規制指導費	2,000	1,926	74	騒音防止法等施行費 (生)
	騒音・振動調査対策費	6,686	12,422	△5,736	低周波空気振動調査費 686 道路沿道環境改善手法開発費 6,000 (生)
	公営住宅騒音対策費	9,159	3,634	5,525	防音サッシ取付 (建)
	小計	17,845	17,982	△137	
自動車公害対策	自動車公害対策費	4,277	4,521	△244	自動車排出ガス対策推進費 4,277 (生)
	自動車公害対策調査費	10,400	6,000	4,400	ジーゼル自動車排出ガス量調査 2,900 メタノール自動車普及促進事業 3,000 自動車使用合理化等促進事業 4,500 (生)
	交通公害対策費	5,000	5,600	△600	交通量調査費 (公安)
	総合都市交通体系調査費	88,200	88,200	0	府下の効率的な総合交通体系整備計画の立案 (土)
	舗装道新設費	705,200	629,500	75,700	未舗装道路の舗装 (土)
	舗装道補修費	2,586,000	2,453,000	133,000	舗装悪化箇所の補修 (土)
	道路立体交差費	1,730,000	764,000	966,000	道路の立体交差化 (土)
	交通安全施設等整備費	1,167,143	1,480,782	△313,639	交差点改良費 258,000 (土) 交通管制センターの拡充強化費 610,024 (公安) 地域制御区域拡大費 267,540 (公安) 信号機の系統化事業費 31,579 (公安)
小計	6,296,220	5,431,603	864,617		

(単位：千円)

区分	事業名	62年度	61年度	増減	摘要
航空機公害対策	大阪国際空港 周辺対策費	152,214	143,616	8,598	都市緑化園管理費 3,000 緑地整備事業費 99,218 営業者あつ旋融資資金貸付金等 16,119 住宅等移転資金利子補給金等 20,971 環境基盤施設整備費補助金等 12,906 (生)
	航空機騒音防止 校舎管理費	56,862	60,678	△3,816	航空機騒音防止校舎冷暖房費 (教委)
	航空機公害実態 調査費	9,658	9,434	224	航空機騒音調査費 (生)
	空港周辺整備機構 助成費	306,140	446,289	△140,149	事業資金貸付金 296,340 民家防音工事費補助金 9,800 (生)
	小計	524,874	660,017	△135,143	
地盤沈下対策	地盤沈下規制 指導費	1,773	1,601	172	工業用水法等施行費 (生)
	地盤沈下観測費	40,854	58,069	△17,215	地盤沈下観測費 13,930 (生) 水準点測量費 26,924(土)
	都市河川地盤沈下 対策費	430,000	430,000	0	河川の改修 (土)
	(特別会計) 地盤沈下対策 事業費	4,579,612	4,188,034	391,578	工業用水道事業費 (水)
小計	5,052,239	4,677,704	374,535		

(単位：千円)

区分	事業名	62年度	61年度	増減	摘要
廃棄物処理対策	産業廃棄物処理指導監督費	47,454	49,046	△1,592	処理業者指導監督費等 17,606 廃棄物検査分析費等 29,848 (生)
	産業廃棄物処理計画推進費	2,800	2,800	0	産業廃棄物情報管理システム整備事業費 (生)
	産業廃棄物中間処理事業促進費	169,200	204,068	△34,868	産業廃棄物中間処理事業費補助金 (生)
	産業廃棄物広域処理対策事業費	26,000	25,300	700	堺第7-3区護岸電気防触装置取替事業費 26,000 (生)
	廃棄物減量化対策推進事業費	2,358	2,403	△45	(生)
	一般廃棄物処理指導監督費	5,326	5,645	△319	市町村指導監督費 (生)
	一般廃棄物処理施設改造費補助金	100,000	110,000	△10,000	し尿処理施設等改造費補助金 (生)
	道路環境整備費	705,990	688,259	17,731	(土)
	公害取締対策費	92	92	0	産業廃棄物検査委託料 (公安)
	広域廃棄物埋立処分場整備促進費	750,590	581,416	169,174	大阪湾広域臨海環境整備センター事業費 750(生) 749,840(土)
	みなと堺グリーンひろば管理運営費	15,000	10,500	4,500	(生)
	小計	1,824,810	1,679,529	145,281	

(単位：千円)

区分	事業名	62年度	61年度	増減	摘要
被害救済等	公害健康被害対策費	27,500	31,500	△4,000	公害病認定患者死亡見舞金等 (生)
	苦情相談処理費	2,728	2,870	△142	大気、水質、特殊公害苦情相談処理費 (生)
	公害紛争処理費	2,018	2,124	△106	公害審査会運営費 (生)
	公害取締対策費	9,993	10,204	△211	公害関係事犯採証機器整備費 (公安)
	小計	42,239	46,698	△4,459	
中小企業に對する助成等	工場立地指導費	2,125	2,398	△273	(商)
	中小企業集団化事業貸付金	300,000	300,000	0	中小企業団地開発協会貸付金 300,000 (商)
	中小企業公害防止資金特別融資促進費	1,490,032	1,499,986	△9,954	融資目標 13億円 貸付利率 年5.4% 貸付期間 7年以内 利子補給 小企業 4.4% 中企業 3.4% (生)
	(特別会計) 公害防止資金貸付金	50,000	50,000	0	設備近代化資金貸付金 (商)
	(特別会計) 公害防止設備貸与事業	10,000	16,000	△6,000	設備貸与資金貸付金 (商)
	公害防止技術向上対策費	1,332	1,337	△5	公害防止技術者養成事業費 1,000 公害防止巡回技術指導費 332 (商)

(単位：千円)

区分	事業名	62年度	61年度	増減	摘要
中小企業に対する助成等	公害対策指導研究費	4,540	4,779	△239	銅めっき浴の電気化学的管理方法に関する研究 (商)
	放射線利用環境汚染研究費	14,601	14,612	△11	放射線利用による元素分析方法の研究 (企画)
	(財)関西産業公害防止センター補助金	300	300	0	酸性雨に関する調査研究 —大気汚染との関連 について— (商)
	環境計量器登録事務費	5,913	5,769	144	(商)
	小計	1,878,843	1,895,181	△16,338	
その他の公害対策	公害防止条例委任事務費	94,025	94,025	0	市町村交付金等 (生)
	(特別会計) 学校等公害防止施設整備事業費	100,000	350,000	△250,000	大気汚染防止、自動車騒音防止、航空機騒音防止のための施設整備資金貸付金 (総)
	公害監視センター運営費	174,975	180,642	△5,667	管理運営費等 101,425 検査分析機器等整備費 27,800 大気、水質、騒音・振動検査業務費 41,409 大気、水質調査研究費 4,341 (生)
	堺分室運営費	44,965	45,434	△469	検査分析費等 (生)
	公害モニター運営費	3,052	3,069	△17	モニター100人 (生)
	電波障害防止対策費	218,323	102,627	115,696	共同アンテナ設置費(教委) (建)
	関西国際空港環境監視機構運営費	9,410	8,650	760	(企業)
	小計	644,750	784,447	△139,697	

(単位：千円)

区分	事業名	62年度	61年度	増減	摘要
農林・水産・畜産公害対策	農作物公害研究費	7,964	11,475	△3,511	農作物に関する公害試験研究費 (農)
	畜産公害研究費	3,535	3,519	16	畜産環境保全対策試験 (農)
	漁業公害対策費	12,321	12,357	△36	漁場障害物除去事業費 11,885 漁場油濁被害救済基金負担金 520(農)
	漁業公害監視費	2,140	2,130	10	漁業公害調査指導事業 (農)
	漁業公害研究費	21,606	19,288	2,318	漁場環境調査費 (農)
	畜産経営環境保全費	28,157	35,157	△7,000	(農)
	水質障害対策事業費	247,700	293,700	△46,000	(農)
	小計	323,423	377,626	△54,203	
環境保健対策	公害人体影響調査費	10,595	10,855	△260	大気汚染人体影響調査費 2,110 大気汚染による住民健康調査費 6,131 生活環境汚染影響調査費 2,354(衛)
	光化学スモッグ対策費	512	531	△19	酸素吸入器設置費74(教委) 光化学スモッグ人体影響調査費 438(衛)
	食品安全対策事業費	14,704	14,955	△251	主要食品中の重金属等検査費 (衛)
	公害衛生研究費	928	976	△48	公害衛生研究費 (衛)
	公害保健調査研究体制整備費	375	385	△10	環境保健体制整備調査事業費 (衛)
	保健所公害業務費	1,481	1,557	△76	職員活動費 (衛)
	こどもの健康調査費	7,820	1,320	6,500	環境衛生検査器具購入費 1,320 こどもの健康調査委託 6,500 (教委)
	小計	36,415	30,579	5,836	

(単位:千円)

区分	事業名	62年度	61年度	増減	摘要
自然環境保全	自然環境保全費	122,682	131,610	△8,928	(農)
	公園緑地整備費	5,751,436	5,590,457	160,979	(土)
	緑道整備費	96,800	117,600	△20,800	(土)
	府民の森整備費	231,602	408,726	△177,124	(農)
	環境緑化推進費	287,692	299,502	△11,810	(農) (土)
	緑化推進対策費	10,669	9,465	1,204	花木等の植樹推進費 9,051 推進啓発費 914 (農)
	森林造成事業費	208,796	188,285	20,511	(農)
	府営林整備事業費	106,632	115,007	△8,375	(農)
	特殊林地改良事業費	65,100	55,125	9,975	(農)
	水源林造成事業費	67,200	63,000	4,200	(農)
	鳥獣保護事業費	30,861	21,146	9,715	(農)
	都市近郊林整備事業費	2,000	2,000	0	里山地域の森林整備 (農)
	特定緑化事業費	230,760	230,760	0	市町村が行う緑化事業に対する助成 (農)
	21世紀の森整備事業	18,485	0	18,485	(農)
	ため池防災事業費	5,000	5,000	0	ため池アメニティの創造 (農)
対策	増殖場造成事業費	100,000	50,000	50,000	増殖場造成事業計画調査 (農)
	栽培漁業推進費	34,906	50,547	△15,641	(農)
	内水面増殖費	13,242	12,706	536	(農)
	自然海浜保全地区管理費	2,747	2,612	135	(生)
小計	7,386,610	7,353,548	33,062		

(単位：千円)

区分	事業名	62年度	61年度	増減	摘要
歴史的	文化財保存指導費	1,459	1,523	△64	(教委)
	文化財資料等整備費	1,126	1,286	△160	(教委)
	指定文化財等管理費	6,956	6,966	△10	(教委)
	府有史跡等管理費	2,041	1,695	346	(教委)
	銃砲刀剣審査登録費	688	710	△22	(教委)
	泉北考古資料館等運営費	12,511	10,884	1,627	(教委)
	近つ飛鳥風土記の丘管理費	13,022	12,975	47	(教委)
	文化財保護啓発費	1,733	1,746	△13	(教委)
	発掘調査出土遺物整理費	36,482	36,492	△10	(教委)
	埋蔵文化財緊急調査費	59,889	60,010	△121	(教委)
文化的環境保全	埋蔵文化財受託事業費	33,045	17,982	15,063	(教委)
	近世社寺建築緊急調査費	2,000	2,000	0	(教委)
	「歴史の道」実態調査費	5,000	4,000	1,000	(教委)
	民謡の収集・保存費	3,000	—	3,000	(教委)
	文化財資料館整備費	1,000	1,000	0	(教委)
	指定文化財保存費	256,854	263,787	△6,933	(教委)
	「修羅」保存処理費	12,730	16,600	△3,870	(教委)
	高等学校埋蔵文化財調査費	20,835	388,679	△367,844	(教委)
	小計	470,371	828,335	△357,964	
	合計	104,550,889	82,505,585	22,045,304	

(備考)

- 増減欄の△の数字は負数を示す。
- 摘要欄()内の漢字は担当部局を示す。

(総)……………総務部	(土)……………土木部
(企画)……………企画部	(建)……………建築部
(生)……………生活環境部	(企業)……………企業局
(衛)……………衛生部	(水)……………水道部
(商)……………商工部	(教委)……………教育委員会
(農)……………農林部	(公安)……………公安委員会